

分野（１）

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び

事業内容の改善方法に関する調査研究

③水泳訓練教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究

研 究 課 題 名： ぜん息キャンプ・水泳教室・スケート教室の効果的な実践及び

改善のための評価手法に関する調査研究

調査研究代表者氏名： 宇理須 厚雄

評価コメント

○呼気NOが喘息の病状評価に果たしてどの程度の臨床的意義を有しているのか、さらに検討を続けてもらいたい。必ずポジティブデータである必要はない。ネガティブデータであってもそれは貴重なデータである。また、NO以外に利用できるマーカーの研究に続けて励んでももらいたい。

○21年度のキャンプにおいて期間中喘息日記、コントロールスコア等を毎日参加者に記録させ、その効果を客観的の指標で確かめさせ、自己管理能力を高める試みが成功し、薬剤アドヒアランスをeNOの変動を参加者自身にモニターさせることにより、薬剤アドヒアランスを高める試みを成功させている。これは当然期待されるべき効果といえるが、行事後その効果がどの程度持続するか、またこれを持続させるにはどのような強化刺激がどのような間隔で与えられることが必要かの検討も今後の課題である。

○各種の自己管理教育ツールおよびEBC生理活性物質、IOSについて、各々の特性と有用性を示唆できたことを評価する。今後、相互の関連性を追及し、チェックシステムの効率化を図るべきである。

○地道な研究であり、努力されているようであるが、斬新性に乏しい。

○呼気中NO測定、呼気凝縮液中の各種指標とぜん息コントロール状態との解析は未だ不十分であるが、これらの手法は他のグループとも共通する面が多くあり、今後これらのグループを統合して解析していく方が有効であると思われる。

○EBCの汎用性に問題がありそうである。FeNOとIOSR20との相関；R5、R5－R20などとの関係などさらに今後の検索が必要である。

○JPACを利用することにより、自己管理の点数が得られて、それが自己管理を継続する動機付けにつながっている可能性があるが、もう少し症例を増やして検討する必要がある。

○JPAC点数や重症度と呼気NOの間に相関が全く見られないというデータであるが、それはそれなりにネガティブデータとして重要である。喘息自己管理のためのツールとして、呼気NOがどのような場合に利用できるのか、また、NO以外のマーカーについてもさらに検討してもらいたい。